

地域のつながりが「その時」家族を救う

自主防災

を

考える



いつ発生するか分からない大規模な災害。平成七年一月十七日の早朝に発生した阪神・淡路大震災では、多くの貴重な命が奪われましたが、地域の人たちによる懸命の救助活動で、一命を取り留めた人も多くいました。今月は、災害発生時に重要な役割を果たす「自主防災」について考えてみましょう。

大災害が発生すると

阪神・淡路大震災から間もなく七年。大惨事を目の当たりにして、多くの人が防災用品などを準備したり、家族で連絡方法話し合ったりしたことでしょう。しかし、そんな危機感も年月の経過とともに薄れていませんか。災害はいつ発生するか分かりません。

本市では、大災害が発生した場合、関係機関と連携しながら全力で救助活動を行います。それでも、災害の規模が大きくなればなるほど、迅速な救助活動が困難になることは、過去の教訓が示しています。「救助隊が来てくれるから大丈夫」という考えは、大災害では役に立たないかもしれません。

災害の規模が大きくなると

- ◎被害が多くなり救助隊が直ちにすべての現場には対応できない。
- ◎放置車両や倒れた建物などが障害になり、緊急車両が思うように走行できない。
- ◎電話がかかりづらくなり、救助要請が困難になる。

町内会を中心とした自主防災組織

そこで重要となるのが、地域の実情を熟知し、日ごろから培ったコミュニケーションを生かすことができる、町内会などの地域の人たちによる活動です。

救助隊が到着するまでの間、地域の人たちにより初期消火や救助活動を行うことは、被害を少なくする上で、大変有効です。しかし、このような活動は、災害時に急にできるものではありません。突然発生する大災害で、活動を円滑に行うためには、普段からの準備が求められます。

このため本市では、防災訓練などを通じて地域の防災意

識を高めながら、各町内会に対し、災害発生時に救助活動などを行う「自主防災組織」の結成を呼び掛けています。

また、自主防災組織の活動を支援するため、町内会から推薦された人を対象とした防災リーダー研修の実施や、希望する自主防災組織への防災資機材（消火用バケツ、折りたたみ式担架、救急セットなど十五種類の資機材）の助成などを行っています。清田区でも、現在約半数の



▲防災資機材の一部

町内会で自主防災組織が結成されており、それぞれの実情に合わせた活動を行っています。

その中の一つ、平成八年に自主防災組織を結成した北野第二団地自治会では、今年度防災資機材一式の助成を受けました。「結成時に比べ高齢者が増えており、日中、高齢者が一人家でいる世帯も多い。災害があつたときに自主防災組織が有効に機能するよう、今後は訓練などに力を入れたいですね」と話すのは、会長の佐々木良夫さん。

いつ発生するか分からない大災害。町内会の地道な防災活動が、もしものとき大きな力となります。日ごろから声を掛け合い、隣近所のふれあいを大切にしていくことが、自主防災活動の始まりです。

◆防災などの研修会を開催したいのですが・・

清田消防署では、地域の皆さんの手による「災害に強い街づくり」を支援するため、安全な暮らしに関する知識の普及や向上を図っています。

町内会などで、防火、防災などの研修会をお考えの場合はご相談ください。

詳細 清田消防署予防課

☎ 883-2100

◆自主防災組織を結成したいのですが・・

自主防災のためのリーフレットを用意していますので、ご相談ください。

詳細 総務企画課庶務係

☎ 889-2400

(内線213)